



前回に続いて木造橋、青森県鶴田町の廻堰大溜池（まわりぜきおおためいけ）に架かる「鶴の舞橋」です。全長 300m は木造三連太鼓橋で日本最長とのこと（岩国・錦帯橋は五連で全長 193.3m）。幅 3m の歩道橋ですが中間に大小 2 か所（10×21m・9×9m）の休憩所があります。橋脚は直径 30 cm（樹齢 150 年以上）の青森ヒバ 700 本で、その他も合せて丸太 3000 本、板材 3000 枚を用いているそうです。鶴が空に飛翔する姿をデザインしたもので、2016 年には JR 東日本「大人の休日倶楽部」の CM（吉永小百合）にも出てきました。橋の向こうに岩木山を望みます。



廻堰大溜池は、自然流水の貯水池を 1660 年に堤防を築き用水池にしたもので、1960 年に現在の堤防（長さ 4,178m は日本一）が完成、満水面積 281ha、貯水量 1,100 万トン（県内で最も大きな人造貯水湖）で、岩木山を映す「津軽富士見湖」の愛称もあります。蛇足ですが「津軽富士」という表現について「岩木山は津軽富士ではない。富士山が駿河岩木か甲斐岩木だ」との主張を聞いたこともあります。

鶴田町は、つがる市と弘前市の間にあり、丹頂鶴自然公園もあり、鶴をモチーフにした屋根の JR 五能線陸奥鶴田駅木造駅舎、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」（単板積層材 LVL を用いた木造建築物。「あるじゃ」はスペイン語の Grulla と Ala を合わせた造語「鶴の翅」「鶴翔」、津軽弁の「ここにある」「見つけた」などの意味）、街灯にもマンホールにも鶴のデザインといった「鶴」「鶴」「鶴」の町、そして「木造（きづくり）」もすぐ近くです。



陸奥鶴田駅

屋根形も鶴、ここにも「鶴」



道の駅つるた 鶴の里あるじゃ

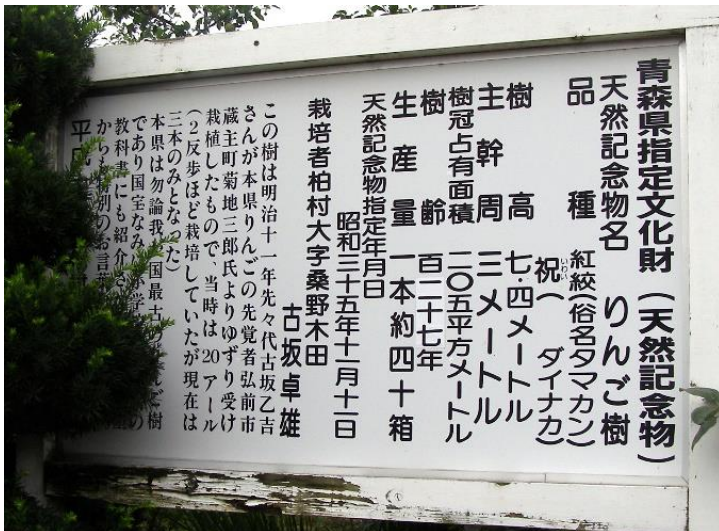
(写真撮影：2010.09.03-04)

<google 地図参照> 鶴の舞橋 <https://www.google.co.jp/maps/@40.7533754,140.3763313,17.08z>

鶴の里あるじゃ <https://www.google.co.jp/maps/@40.7371285,140.4417437,18z>

鶴の舞橋から北東 5km 程には、つがる市に入りますが「日本最古のりんごの木」もあります。明治 11 年に植えられた樹齢 140 年以上になる「紅絞」2 本と「祝」1 本が県の天然記念物に指定されていて、現在もりんごの収穫が続いているとのことです。

そこから北西 3km 程には JR 五能線の「木造（きづくり）駅」があります。残念ながら木造駅舎ではありませんが、木造駅から北西北 10km 程の亀ヶ岡石器時代遺跡から出土した遮光器土偶を 17m にも巨大化したオブジェが見られます。



(写真撮影：2009.07.21)

<google 地図参照>

日本最古のりんごの木

<https://www.google.co.jp/maps/@40.7830714,140.4133222,18.47z>

木造（きづくり）駅

<https://www.google.co.jp/maps/@40.8040489,140.380231,15.38z>

亀ヶ岡石器時代遺跡

<https://www.google.co.jp/maps/@40.8845362,140.3377137,17.54z>

木造駅



2019.12.01